

様式1 平成30年度 山梨県立巨摩高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。
-----------	------------------------------------

巨摩高校校長 金塚 正貴

本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考える態度を育成し、学力の定着と向上に努める。
	2 自主・自立の精神とコミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。
	3 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図る。
	4 生徒の一生懸命な取り組みを評価、支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			年度末評価(3月20日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	「巨摩スタイル」のさらなる充実を目指して、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを追究し、教員個々の授業力強化を目指す取り組みを加速する	授業参観における管理職の指導助言を積極的に行うとともに、生徒による授業評価を適切にフィードバックし教師個々の授業への振り返りを深化させる。 面談等を通じて、家庭学習時間や学習方法について、個に応じた指導を行う。	授業参観参加票・生徒による授業評価アンケート 家庭学習時間調査・各学年での実施状況調査	すべての教員に対して、管理職による年2回の授業観察を行い、ほぼ全員がICT機器を活用した授業展開を行った。授業観察の結果はその都度教員にフィードバックし、授業改善に生かすよう取り組んだ。本年度導入した短焦点型プロジェクターの稼働率も非常に高い。	A	巨摩スタイルの充実をさらに進めるため、全職員で理念の再確認をする必要がある。
2	進路目標実現のため、教科、学年、分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進する	生徒一人一人が高い目標に向かって切磋琢磨できる学習環境を整える。 挨拶運動、清掃活動などにおいて、教師自らが「明るく、楽しく、前向きに」の実践をする。 生徒の自己肯定感を高められるような働きかけを行い、学校生活及び進路目標の設定の適切な指導を進める。	授業評価アンケート 進路実績 学校評価アンケート 進路志望調査及び生徒によるアンケート	学校評価アンケートでは、94%の生徒が、進路意識高揚のための取組を肯定的に評価している。また、80%の生徒が担任や先生は信頼できると答えている。一方、8%(53名)の生徒が、学校へ行くのが全く楽しくないと答えている。	B	生徒は高い評価をしているが、学習習慣の確立と進路実現の力をつけることを目的とした土曜講座、土曜学習会は、教員の負担になっている。働き方改革とのバランスを取りながら生徒の学力向上を目指す方策を模索し確立しなければならない。生徒にとっても教師にとっても、学校が楽しい場になる必要がある。
3	部活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、充実感を持てるような指導を実践し、誇りと感動にあふれた学校となるよう努力する	部活動、学校行事、特別活動およびボランティア活動に積極的に取り組む、意欲的な向上心あふれる生徒を育成する。 心のケアや特別支援教育について、指導方法の共通理解と相談体制の充実に努める。	生徒による学校行事等に関するアンケート 学校評価アンケート	部活動・学校行事等の生徒会活動は非常に活発であり、アンケート結果に見られる生徒の評価も高い。その反面、生徒の悩みを聞き取る体制が上手く機能していない。	B	生徒会活動は概ね順調であるが、計画が後手に回ることがある。先を見越した行事検討を心がける必要がある。生徒相談体制は一部の分掌に任せられるのではなく、教員全員が常に生徒の声に耳を傾ける姿勢を示し、そのための時間を確保することが必要である。
4	本校の特色や活動の成果をあらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校作りに努める	地元中学校との連携を強化し、学校説明会やオープンスクール等で積極的に広報するとともに、学校案内や巨摩高だより、ホームページなどの内容を一層充実させる。 地域や家庭と協力しながら、防災・安全教育に力を入れる。 防災教育に関する効果的な取組を企画し、キャリア教育の充実を図る。	学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	後期募集検査の応募者数は1倍を超えることができなかった。しかし、理数創造コースに関しては、定員を超える希望者が集まり、広報活動が一定の成果を上げたことを伺っている。学校アンケート結果は、防災訓練は適切に行われていると評価されているが、職員の協力体制に問題があると指摘されている。	B	峡西地区新設校が本格的に稼働する時期を迎え、地域における本校の存在意義をより強く地元中学校へアピールする必要がある。防災教育・防災訓練に関わる体制を強化する必要がある。
5	スーパーサイエンスハイスクールで培ったノウハウを活かすとともにユネスコスクールの強みを活かして、自然科学教育、国際理解教育を実践できる教育体制整備に一層の力を注ぐ	コースやクラスの特徴を活かした教育課程の編成と授業内容の工夫・改善を図る。 SSHで確立された事業に加えユネスコスクールの事業を積極的に活用する道筋を確立する。 活動の情報発信を学校内外に積極的にに行い、充実した成果を目指す。	教育課程委員会・進路検討会等での検討 学校評価アンケート・ユネスコスクール事業参加状況 学校評価アンケート	SSH終了後を見据え、エネルギー教育事業を活用した研修を行い、次年度以降に繋げられる道筋を見つけたことができた。ESDパスポートを活用したボランティアの取組も定着してきており、今年度はボランティア活動による増加単位認定の生徒も出た。米国研修への希望者も多く、選抜された生徒は積極的に事前研修に取り組んでいる。	A	SSHで培った地域連携の取組である「わくわくサイエンス」や「楡形山研修」を充実させさらに発展させていく必要がある。国際教育、ユネスコ活動も良いサイクルが確立されてきているので、この流れを切らない事が必要。

学校関係者評価	
実施日(平成31年2月20日)	
評価	意見・要望等
B	生徒が落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいる。巨摩スタイルが、巨摩高校の教育活動全体をさせる存在になっていることを感じた。
B	3年生のアンケート結果を見ると、学年が進むにつれて巨摩高校を肯定的に評価する率が上がっている。進路決定の時期に向けて先生方の熱意が伝わり、生徒もそれに応えているのではないかと。
B	保健室が生徒の悩みを聞く場として機能していることがうかがえる。生徒指導における共通理解が不足していると感じている職員が多いようだが、多忙化による時間不足が原因しているのではないかと。職員にゆとりを持たせることが必要ではないかと。
B	美術館フロントコンサートや特別支援学校スポーツ大会へのボランティア協力など、様々な地域貢献をいただいていると感じている。
B	「わくわくサイエンス」は地域の小学校、中学校にとってもありがたい行事である。SSHが終了しても、この事業は是非継続していただきたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。